

平成 2 年 度

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略(五十音順)

和歌山県名匠

う え な か き よ し 上 中 喜 代 司

経歴及び業績

14歳で和歌山市の谷口木工に、箆筒造りの見習いに入り、修業をつんだ後、昭和29年、20歳という異例の若さで独立した。

以来、江戸時代後期に始まったとされる紀州桐箆筒の伝統技法を継承、発展させてきた。

一般的に桐箆筒は、防虫性、防湿性、防火性に優れているといわれているが、特に氏の作品は、繊細な仕口と仕上げに特徴があり、優れたデザイン感覚に裏付けされて、高い品格を有している。

昭和62年度全国優良家具展大阪大会に出品した総桐箆筒が通産大臣賞に輝くなど、多数の賞を受賞している。

昭和62年に、和歌山市の紀州箆筒が国から伝統的工芸品産業の指定（「伝統的工芸品産業振興法」に基づく。）を受けたが、これは産地指定に傾けた氏の情熱のたまものといえる。

現在は、産地の後継者育成にも力をそそいでいる。

昭和60年から紀州桐箆筒協同組合理事長をつとめている。

平成元年度に伝統工芸士の称号（伝統的工芸品産業振興協会）を受けるとともに、県政功勞を受けている。



職 種 桐箆筒製作